

夏 秋にも多彩なイベント

島民の協力で戻った活気



用意された国体応援ののぼり

この夏の三宅は、富賀神社大祭など様々な祭りやイベントで賑わった。10月には東京都国体のトライアスロン競技の開催も控えており、島は活気に包まれている。

島市の開催日が決定

10月にはバイクレースも開催



大盛況だったフラダンス

【マリンスコール】商工会主催の「第19回ふれあいランド三宅島マリンスコール21フェスティバル」が7月8日にふるさと体験駐車場で開催された。今回は1日となった。

- ・第17回 8月25日 阿古・船客待合所前
- ・第18回 9月22日 神着・商工会、七島信用
- ・第19回 10月27日 阿古・船客待合所
- ・第20回 11月23日 旧阿古小中校庭(産業祭)

【島市開催日程】が、御蔵島と八丈町からフラダンスの応援も多くあり、盛況であった。商工会は、今年度の島の開催計画を次の通り決定した。

- ・第21回 3月2日 伊ヶ谷・三宅村コミュニティセンター(レディーズラン)
- 【4回目のバイクレース】10月26日(土) 七島展望台から元村営牧場跡地で全クラス一斉スタート150分耐久レース。今回の賞金は総額67万円(一等30万円)他に特別賞として競技参加者の応募抽選で250ccバイク新車1台が当たる。

今年の夏は、5月のアカッコ館開設20周年記念イベントが春夏秋と続く。7月に神着の牛頭天王祭、8月には、富賀神社大祭の神輿が島内を巡行した。8日の神着から坪田に神輿を渡す際には、恒例の「ケンカ神

輿」と呼ばれる小競り合いがあり機動隊や救急車が出動。警察から注意を受けたとの噂もあるが、勇壮な島民の心意気や、神事として若者を鍛える郷土文化なので、そうした介入は慎重に願いたいとしている。

10月には、第68回国民

体育大会(国体)が始まる。今回は、東京都での開催。三宅島でトライアスロン、大島町で相撲、八丈町で軟式野球、神津島・新島村でビーチバレーが開催される。三宅は、5日(土)から阿古漁協、天候により神着の湯の浜からスター

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○あおぞら市

日時：10月6日(日)
12:00～18:00

場所：神楽坂商店街

○世話人会のお知らせ

日時：9月21日(土)
18:30～20:30

場所：喫茶ルノアール
(巢鴨駅前店)

○ご寄付のお願い

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：加藤

齋藤塾勉強会 三宅島噴火災害を振り返って 火山発生のメカニズムを学ぶ



齋藤塾の勉強会 左が齋藤氏 右が石峯氏

齋藤塾が主催する「噴火災害と健康障害」の勉強会が、8月7日に工学院大で行われた。この研修会では三宅島噴火災害を振り返って火山発生のメカニズムなどを学んだほか、国立保健医療科学院健康危機管理研究部の上席主任研究官である石峯康浩氏から、火山ガスの健康被害などに関するお話を伺った。

危機管理勉強会（齋藤塾）は、8月7日、工学院大学で「噴火災害と健康障害」の勉強会を開いた。齋藤塾長ミニ講座として、火山噴火の基礎知識と三宅島噴火災害を振り返ることをテーマに、火山発生のメカニズム、日本の活火山、火山

噴火の観測・監視体制等、火山噴火災害の被害、火山噴火への備え等、三宅島噴火災害を参考にするなど貴重なお話とともに資料も配布された。つづいて「噴火災害と健康障害」を国立保健医療科学院健康危機管理研究部の上席主任研究官の

石峯康浩氏から、三宅島の火山ガス放出事例の調査や降灰や火山ガスの健康被害等は詳細にお話を伺った。

想定外としない対策を
東日本大震災後、火山の活発化に研究者が警戒を強めているが、地震や津波に比べて火山防災は後手に回っている。行政企業、市民が連携し、大規模噴火を「想定外」としない対策づくりを急げと内閣府有識者検討会が提言した。（5月22日日経新聞）現状は、これま

**日本応用心理学会
80回記念大会**
三宅島から福島へのエール
— 2000年三宅島雄山噴火の教訓生かして—
日時：9月14日（土）9時～11時
場所：日本体育大学 3206 教室
発表者：大森哲至先生、福島県大熊町・河東仮設住宅2名、（三宅関係）松尾元三宅高校長、佐藤ネット会長（予定）
* 恵比寿駅からバスで約30分
* 問合せ先 学会事務局
☎ 03(5389)6491 一般参加歓迎

「灰とダイヤモンド」
感動の物語 一読を
避難前後から三宅高校野球部の山本顧問と生徒たちの苦闘のフィクション小説が出版された。「灰とダイヤモンド」三宅高校野球部、復興へのプレイボール。夏の甲子園開会式の選手の入場行進の先導役として、ただ一人堂々と行進した主将のツムラくん、島民は思

では研究者が山に住み込み観測拠点の管理に努めてきた。それが2004年の国立大学法人化などによって火山観測の経費が削減され、近年は観測体制の維持が困難だ。

気象庁と防災科学研究所、各地の大学は2010年10月中にも、火山周辺で測定した様々なデータをリアルタイムに共有する情報網を立ち上げる、と報じた。

わずら目頭を熱くしていた。全ての島民が頑張ろうと心をつににした。ふるさとネットにも島外の熱心な応援者がいる。豊島区の遠山定雄さんは、地区戦出場は必ず球場で応援。山本元監督を定年後も顧問を続けるように要請を提案。また兵庫区の天神山廣志さんは、約100個の硬球を地元プロ球団から寄付を求め女優の京町（ミヤコ）さん等と三宅高校朝礼で野球部に届けた。

しかし今年は、三宅高校生は23人、野球部は数人となり地区戦にも出場することが出来なかつた。噴火災害の傷跡はますます深刻化している。貴重な噴火の記録として一読を！PHP研究所1700円（浅沼教材店でも購入できます）

ふれあいコール 在京島民86世帯に 猛暑の中「動けない」の声も

8月に入り、三宅島ふるさと再生ネットワークの世話人は、在京島民86世帯に向けてふれあいコールを行った。日頃の悩みやお体の具合などを伺ったところ、元気で三宅島新報を楽しみにしているという声も聞かれた一方、記録的な暑さが続く中、買い物や通院で体を動かすのが辛いという声も聞かれた。

3グループで実施

今年には記録的猛暑ということで、毎日暑い日が続いている。今年も日頃



ふれあいコールを行う世話人

の悩みやお体の具合を伺う為、三宅島ふるさと再生ネットワーク事務局では8月に入りふれあいコールを行った。
在京島民86世帯を対象に3グループに分けそれぞれ電話をかけた。8月の夏休み期間ということもあり、留守番電話などで繋がらないお宅も多かったがその中でも現状を少し把握することが出

来た。

「新報楽しみに」

「高齢で一人暮らしをしていてAさんは、変わりはないけれど、要介護だから動こうと思っても動けない…。元気なんですよ、ありがとうございます。」とおっしゃっていました。また「年だからいろいろあるけど、元気に過ごしています。三宅島新報も楽しみにしているの、また送ってください」などうれしい声も聞かれた。また「休みの日に子どもたちが孫

を連れて家に遊びに来てくれるのが嬉しくて、今の唯一の楽しみがその時間なんです。他に楽しみがないからね。」というお話も聞かせてくれた方もいる。

買い物・通院がたいへん

全体的に「家にいてやるのがない、やりたくても体が動かないなどの意見が多く、買い物や病院への通院にも時間や体力を使っていたいへんだ」との話が多かった。今回のふれあいコールで全員のお話を聞くこと

は出来なかったが、殆どのお宅が暑さにも関わらず何とか元気で過ごしているとのことだったので安心した。

まだまだ残暑が厳しいので無理をせずに過ごしてほしいと感じた。また次回もふれあいコールを通じて少しでも現状を把握することが出来たらと思う。

今回、貴重なお時間をつかってお話しをしてくださった在京島民の方々、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

「おいでください」あおぞら市

ふりかけや佃煮など新商品を販売

10月6日に新宿区の神楽坂商店街で行われるあおぞら市で、ふるさとネットは今回も物産店を出店します。
あおぞら市への出店を重ねる中で、徐々にリピーターや島の現状について興味を持ってくださる方が増えていることを

嬉しく思っております。物産店では、くさやや島在住でネット副会長でもある光安千久子さんが栽培した明日葉やにがたけ、天ぷらやおこわが主に販売されてきました。今回の出店にあたり、販売する品数を増やそうと、島で売られている明

日葉のふりかけなどの加工品を役員が持ち寄り、話し合いを経て候補を絞りました。

その結果、これまで通り明日葉、くさやなどの商品売るほか、人気の芋もちを真空パックすることでより長持ちする工夫をしたり、ふりかけ、にがたけの煮物などを加えることにしました。ぜひ足をお運びください！

DTPA会長の三宅島訪問記

蘇った自然で元気をチャージ

緑を取り戻しつつある三宅島。高濃度地区の指定も解かれ、三宅島の観光情報も多く目にするようになった。私は島の状況を本紙を通して7年以上発信してきた(DTPA会長山尾啓予)。今回は、佐藤会長や光安副会長のご厚意に甘え、学生時代に訪れてから4年ぶりに島へ行く機会を持った。島では自然に癒され、美味しいご飯もいただき、大満喫させていただいた。

長くボランティアで三宅に関わっていた私は、「ボランティアではなく遊びに来てはどうか」と佐藤さんからお話をいただき、お言葉に甘えて友

人を誘い、8月2日2泊で三宅にお邪魔した。8年前の2005年、私は伊勢原市の向上高校新聞委員会に所属し、災害ボランティア特集の取

ドルフィンスイムを終えて記念写真



富賀神社の勇壮なお神輿

材で初めて島に行った。当時、木々は立ち枯れし、家は朽ち、風が吹けばガス臭かった。火山ガスなどの様々な理由で帰られずにいる島民がいるなど、多く問題を三宅は抱えていた。大学4年間は、ボランティア(DTPA)で三宅島を訪れたが、夏に行くと緑が増え、自然の回復力に驚かされた。

三宅の大自然に癒されて

今回久しぶりに目にした雄山は緑がとも綺麗だった。到着して一眠りさせていただいたのち目覚めると、縁側から朝の涼しい風が木々を揺らして吹き込み、鳥のさえず

ご寄付者名

齋藤實様、阪神高齢者障害者支援ネットワーク様、牧田勝彦様、吉野文雄様、吉田信行様、佐藤宗ノ子様、小川恵美様

(7月1日~8月14日まで)

たくさんのご協力、ありがとうございました。頂いた寄付金は、大切に使用させていただきます。今後も、ご支援よろしくお願い致します。

りが聞え、心地よい贅沢な時間を過ごした。午前は伊ヶ谷で泳ぎ、昼は光安さんお手製のお弁当をいただいた。私の好きな明日葉の天婦羅やコロツケが入っていて嬉しかった。午後は御蔵島へ行き、イルカと泳いだ。海は驚くほどの青さでも綺麗だった。その後ふるさとの湯で海を眺めつつ身体を温めた。夜になり空を見上げると満天の星で、アオバズクの「ホッホッホ」という鳴き声が遠くで聞こえた。佐藤さんの庭先では「雄山」を飲みつつ「ベキュー」を楽しんだ。翌朝、みそ汁に明日葉とにがたけが入った島のみそ汁を味わったのち、富賀神社の御輿を見た。

編集後記

新報の編集作業を通じて、三宅島の現状を知ることができています。高濃度地区の指定も解除され、少しずつ島の生活が元に戻っていることを感じます。10月にはあおぞら市があります。私たちもできる限りお手伝いします。

(DTPA一同)